

公益社団法人日本PTA全国協議会

**文部科学省 中央教育審議会
教育課程企画特別部会 発表資料**

本日は、次期学習指導要領について、保護者の立場から意見を申し上げる機会をいただき、ありがとうございます。公益社団法人日本 PTA 全国協議会を代表して、全国の保護者の視点から、6 点申し上げたいと思います。

まず、今回示されている「多様な子供たちの『深い学び』を確かなものにする」という基本的な考え方、そして「自らの人生を舵取りする力」を育み、「民主的で持続可能な社会の創り手」を育てていくという方向性について、私たち保護者としても大変重要な視点であると受け止めています。

その上で、一つ目は、保護者への丁寧で分かりやすい説明をお願いしたいということです。学習指導要領は学校教育の基本となる大変重要なものですが、私たち保護者が、その内容や改訂の趣旨を十分理解できているかという点、必ずしもそうではありません。今回は、「何を学ぶか」だけでなく、「どのように学ぶのか」「どのような力を育てるのか」という教育そのものの考え方が示されています。ぜひ、先生方だけでなく、子供たちや保護者にも、これから学校教育がどう変わっていくのかを、分かりやすい言葉で伝えていただきたいと思います。

その際には、ぜひ PTA も活用していただきたいと思います。全国各地の PTA では、様々な会議や研修会など、保護者と先生方が集う機会があります。次期学習指導要領の理念を保護者や地域へ届ける際には、日本 PTA としても積極的に協力していきたいと考えています。

二つ目は、子供の置かれた環境によって、学びの可能性に格差を生じさせないでいただきたいということです。家庭の経済状況、住んでいる地域、学校の規模、デジタル環境など、子供たちを取り巻く環境は様々です。教育課程が柔軟になり、学校の裁量が広がることは大切ですが、それによって学校や地域ごとに、子供が得られる学びや経験に大きな差が生じることがないようにしていただきたいと思います。どこに住んでいても、どのような家庭環境にあっても、すべての子供に質の高い学びが保障される。そのことを制度設計の基本に置いていただきたいと思います。

三つ目は、SNS 等のデジタルや生成 AI と教育との関係です。これは今、保護者にとって非常に関心の高いテーマです。私たち大人でさえ、生成 AI をどこまで使うのか、SNS とどう付き合うのか、悩み、答えを探しています。子供たちにデジタルや AI とどう向き合わせるのかは、学校だけではなく、家庭も一緒になって考えていかなければならない課題だと思います。AI があるから知識が必要なくなるのではなく、AI が示した答えが正しいのかを考え、自分で問いを立て、判断し、自分の言葉で説明する力は、むしろこれまで以上に重要になると思います。同時に、人と直接関わること、自然に触れること、スポーツや文化・芸術を体験すること、失敗したり、誰かと協力したりすることも大切です。デジタルカルリアルかという二者択一ではなく、AI 時代だからこそ、人間にしかできない学びや体験を大切にする教育であって

ほしいと思います。

四つ目は、教職員の働き方改革と保護者への負担についてです。先生方が子供たちと向き合う時間を確保するため、学校や教師が担う仕事を見直すことは必要です。ただ、その仕事そのままだと保護者や PTA、地域へ移されるだけでは、持続可能な仕組みにはなりません。誰かの負担を別の誰かに移すのではなく、「学校が担うこと」「家庭が担うこと」「地域や社会が担うこと」を整理しながら、社会全体で子供の学びをどう支えるのかという視点で進めていただきたいと思います。

五つ目は、今回のまとめの中で、私自身、非常に印象に残った言葉について申し上げます。それは、「『好き』を育み、『得意』を伸ばす」という言葉です。私自身、これまで学校というところは、好きなことだけではなく、苦手なことにも取り組み、できないことを少しずつできるようにする場でもあったと思ってきました。もちろん、その役割はこれからも大切です。一方で、これからの社会を考えると、すべてを平均的にできるようにすることだけではなく、その子が「これが好きだ」「これなら頑張れる」というものを見つけ、それを自分の強みとして伸ばしていくことも、とても大切なのだと思います。基礎・基本をしっかり身につけながら、一人一人の興味や関心、強みにも光を当てる。今回、このことが明確に示されていることを、私は非常に心強く感じています。

そして六つ目は、学校をもっと社会に開いていただきたいということです。これからの子供たちは、私たち大人が経験したことのない社会を生きていきます。だからこそ、決められた正解を覚えるだけではなく、自分で考え、問いを立て、選び、時には失敗し、そこから立ち上がり、誰かと協力しながら未来をつくる力を育ててほしいと思います。そのための学びの場は、学校の中だけではありません。地域、大学、企業、福祉、文化、スポーツ、NPO など、社会には多様な人材と学びの場があります。社会そのものを、もっと子供たちの学びの場として開いていただきたいと思います。また、不登校の子供、集団での学びが難しい子供、発達上の特性がある子供、ある分野に突出した力を持つ子供など、子供たちは一人一人違います。私は、これからの教育は、「子供を学校に合わせる」という発想から、もう一歩進んで、「一人一人の子供の今と未来に、教育の在り方を合わせていく」という方向へ進んでほしいと思っています。

最後になります。教育をつくるのは、文部科学省や教育委員会、学校、先生方だけではなく、子供自身はもちろん、家庭、地域、そして社会全体が、それぞれの立場から教育に関わっていくことが必要です。私たち保護者も、学校に何かを「してもらおう」だけの存在ではなく、子供たちの学びと成長とともに支える当事者でありたいと思います。次期学習指導要領の理念を学校現場だけのものにせず、家庭や地域、社会全体で共有し、一人一人の子供の今と未来をみんなで支えていく。日本 PTA としても、その橋渡し役を担い、全国の保護者とともに考え、行動していきたいと思っています。次期学習指導要領が、すべての子供たちにとって、「自分の未来を自分でつくっていける」と感じられる教育につながることを期待し、私からの意見とさせていただきます。

ありがとうございました。